

2021 世界体操・新体操世界選手権北九州大会

COVID-19 感染症対策に係るガイドライン

第 1 稿 2021 年 8 月 17 日

第 2 稿 2021 年 8 月 31 日

第 3 稿 2021 年 9 月 8 日

第 4 稿 2021 年 10 月 4 日

第 5 稿 2021 年 10 月 6 日

はじめに

COVID-19 のパンデミックは、2020 年には人命のあらゆる面で、これまでにない課題に影響を与えてきました。スポーツの世界でも同様に、国内および国際スポーツ大会が中止され、その結果、スポーツ大会開催には新たな行動規範が求められています。

FIG the 50th Artistic Gymnastics (2021 年 10 月 18 日—24 日)/the 38th Rhythmic Gymnastics (2021 年 10 月 27 日—31 日)世界選手権を、安全に開催するために、FIG, JGA, 北九州市、福岡県と組織委員会(LOC)が協力のもとに、その医事委員会(MC、委員長、岩崎 安伸、国際体操連盟 医科学委員長)は、COVID-19 パンデミックの下で従うべきガイドラインおよび新型コロナウイルス感染対策の暫定版を作成しました。

このガイドラインは、世界保健機構(WHO)、IOC 医科学委員会、および世界中の様々なスポーツ団体が取り組んでいるスポーツにかかわる新型コロナウイルス感染対策に基づいて、作成されています。

日本政府(GOJ)、福岡県(FPG)、北九州市(COK)、および保健行政機関が定めた関係法令の改正に伴い、本文書も更新します。

本文書に示されたいずれの対策やガイドラインは、日本政府、地方自治体(FPG および COK)の法律および規則に取って代わるものではありません。

本大会における新型コロナウイルス感染対策は次の 5 点を柱としています。:

- フィジカルディスタンスを保つこと (飛沫をお互いに避けるため)
- 接触を減らすこと(飛沫や直接接触によるウイルス伝播を避けるため)
- 参加者のコントロール/スクリーニングを確実に行うこと
- 参加者の自律性・自己管理を求めること
- 新型コロナウイルスの予防教育を徹底すること

2021 年 FIG the 50th Artistic Gymnastics/the 38th Rhythmic Gymnastics 世界選手権に参加するすべての人(選手、チーム関係者、大会運営者、さらにはボランティアなど)は、このガイドラインを遵守しなければなりません。

1. 基本方針

1.1. 一般的措置

機能と役割にかかわらず、本世界選手権に参加する全ての個人が、以下の感染対策に従うことが求められます。

- 頻繁に手を洗いましょう/消毒しましょう。人や共用物に触れたことがある場合は、特に注意。
- 日常の日常衛生を実践する(身体活動の開始時と後にシャワーをすすめる)
- 握手は禁止します。非接触グリーティングを使用するか、肘タッチを使用します。
- 常時、マスクを着用し、汚れている場合はマスクを交換してください
- フィジカルディスタンスをできるだけ維持してください。
- 携帯電話など、個人の持ち物も頻繁に消毒してください。
- 携帯電話、ウォーターボトル、ペンなどを他人と共用するのは避けてください。
- COVID-19 の症状がある場合は、LOC および/または MC に通知してください。具体的な連絡先については、大会マニュアルに記載します。

1.2. 参加条件

LOCとMCは、COVID-19パンデミックに関連する現状を踏まえ、必要に応じて参加様式の条件を更新することがあります。LOCは、本世界選手権における参加条件に関連する文書を作成または変更する権利を保持します。

現時点で、日本政府からは海外からの参加者は、大会終了後、市内を旅行したり、公的交通機関を利用することは認められていません。

1.3. 登録

参加者の規模を縮小し、チーム担当者の最大人数を以下のように見直します：

- 世界体操については、1ヶ国あたりの登録選手を最大 10 名、帯同チームスタッフは選手の 2 倍程度を最大とする。
- 世界新体操については、1ヶ国あたりの登録選手を最大 9 名、帯同チームスタッフは選手の 1.5 倍程度を最大とする。

このガイドラインに記載されている感染対策や行動ルールに従わない個人は、大会に参加できません。

1.4. 定義

本文書の目的上、以下の定義を定めます。

参加者 - イベントの認定を受けた人を言います。

ワークフォース - ボランティアや大会運営者などを言います。

フィジカルディスタンス - 他人とは最低 1.5 メートルの距離を維持することです。

マスク - 外科用マスクまたは FFP2 マスクが望ましいですが、繊維マスクでもかまいません。

消毒剤 - アルコールなど基準にしたがった消毒特性を有する衛生的な液体またはゲルで、できれば非接触式ディスペンサーを使用します。

個人用保護具(PPE) - 感染予防のため、個人が着用するガウンなどです。

体温チェック - 非接触温度計を用いて体温を測定します。

COVID-19 PCR 検査 - COVID-19 感染に対するポリメラーゼ連鎖反応検査を言います。

COVID-19 症状 - COVID-19 感染の可能性を疑わせる症状です。症状には以下のものがあります。

- 発熱(37.5 度以上)
- 乾性咳嗽
- 疲労感
- 筋肉や関節の痛み
- 咽頭痛
- 下痢
- 結膜炎
- 頭痛
- 味覚や嗅覚の喪失
- 皮膚の発疹、手足の指の変色
- 呼吸困難や息切れ
- 胸痛や圧迫感
- 発語や運動の喪失

濃厚接触者

COVID-19 患者が発症前 2 日以内に接触した人のうち；

- 患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者
- 適切な感染防護なしに患者を診察、看護若しくは介護していた者
- 患者の呼吸分泌物と体液に触れた人
- 手で触れることの出来る距離(目安として1メートル)で、必要な感染予防策なしで、患者と15分以上の接触があった者

「新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領 国立感染症研究所 感染症疫学センター 令和3年1月8日版」<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/COVID19-02-210108.pdf>

以上を踏まえて北九州市保健所が濃厚接触者の認定を行います。
FIG および LOC は北九州市保健所の決定を尊重し、従います。

2. COVID-19 対策

本世界選手権の参加者は全員、競技期間前および期間中に COVID-19 に関する検査の対象となります。

検査に加えて、すべての参加者は、本ガイドラインによって設定された対策を遵守しなければなりません。

2.1. 日本国への入国及び活動の制限

入国時検疫の要点

1. 出発前

- 日本入国前 14 日間の健康観察を行ってください。
- 毎日検温をし、記録してください。

入国前 14 日間に症状がある場合:

- 日本への渡航は中止してください。
- 医師と次のステップについて確認してください。
- LOC へ報告してください。

滞在期間中に必要となるアプリをスマートフォンやタブレットにダウンロードしてください。
入国空港にて、入国審査の際にダウンロードされているか確認があります。

必要なアプリ

- MySOS(健康居所確認アプリ)
- 位置情報設定・保存(GoogleMaps 等の設定)
- COCOA(接触確認アプリ)

出発前 72 時間以内の検査結果陰性証明

出発国から出発する前 72 時間以内に、以下の検査のいずれかの検査結果が陰性であることを証明する証明書を取得し、入国時に携帯、提示しなければなりません。

- RT-PCR 検査
- LAMP 法
- 抗原定量検査

アプリのダウンロードについて、詳細は以下を確認してください(厚労省 Web)

日本語：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00250.html

英語：<https://www.mhlw.go.jp/content/000806890.pdf>

中国語：<https://www.mhlw.go.jp/content/000806903.pdf>

2. 入国時

①空港付添い

世界体操・世界新体操の案内看板を持ったスタッフが降機直後から入国者を案内します。スタッフの案内に従って移動し、入国に必要な書類のチェックなど円滑に入国審査が進むよう補助し、国内線乗換えまで付き添います。

②空港で COVID-19 検査を受検

すべての国際参加者は、入国に際して空港の検疫所で実施される COVID-19 検査を受けなければなりません。また、全ての参加者は、結果が出るまで指定された場所で待たなければなりません。

陽性となった場合は、日本の保健当局の指示のもと指定されたホテルまたは病院で治療を受けることとなります。なお、検査は日本の保健当局が行うもので、検査結果について LOC や被検者の意見が考慮される余地はありません。このため、クレームや再検査の要望は一切受け付けられません。

また陽性者は、大会に参加することはできません。療養期間後、帰国となります。

③入国審査時の誓約書の提出

LOC は GOJ に対し、日本滞在中のすべての国際参加者の国内移動手段を含む活動計画を提出し、GOJ の承認を受けています。国際参加者は、本活動計画を遵守する誓約書に署名し、入国審査の際に提出しなければなりません。

④入国審査時にアプリの提示

3.1 の 1.出発前にダウンロードしたアプリの提示が必要となります。

3. 入国空港から福岡空港/北九州空港への移動

2.で陰性が確認された国際参加者は、LOC が用意するスタッフの誘導のもと、不特定多数の一般客と密接にならないようフィジカルディスタンスを保ちながら、飛行機の乗換えを行ってください。

日本に到着してから 14 日間

① 日本では、全ての国際参加者は、活動計画の指定された場所を除いて旅行できません。すべての国際参加者は、公共交通機関による移動を許可されていません。

注：LOC は入国空港から北九州市までの移動手段およびホテルから大会会場までの移動手段を準備します。(5.移動を参照)

- ② 入国前にダウンロードしたアプリを使用し、健康報告や位置情報の記録、COCOA の常時オンをしてください。

MySOS(健康居所確認アプリ)

- 1日1回、健康状態を確認する通知がアプリに届きます。通知に従い、健康状態を報告してください。
- 「入国者健康確認センター」から居所確認のため、ビデオ通話での着信があった場合は、必ず応答してください。

位置情報設定・保存(GoogleMaps 等の設定)

- 万が一、陽性となった場合、位置情報の記録を保健所などに提示するため、位置情報を必ず保存してください。

COCOA(接触確認アプリ)

- 陽性者と接触した可能性について通知を受けることができます。日本滞在中は必ずオンにしてください。

2.2. COVID-19 に関する検査

2.2.1. 検査内容と頻度

参加者をカテゴリー分けし、検査を行います。

カテゴリー	所属者	検査内容*	備考
A(海外)	選手(指定国以外および国内)	PCR 検査 入国時、入国後 1 日目、2 日目、3 日目、8 日目、14 日目 抗原検査 入国後 1 日目、2 日目、3 日目	
A(指定国)	選手	PCR 検査 入国時、入国後 1 日目、2 日目、3 日目、8 日目、14 日目に加え国が定める検査日* 抗原検査 入国後 1 日目、2 日目、3 日目	変異株の指定国から入国した場合は、入国後 3 日目の検査結果を空港検疫・厚労省に報告
A(国内)	選手(日本国内から参加)	PCR 検査 はじめてLOC指定施設へ入る 72 時間前以内、1 日目、2 日目、3 日目、8 日目、14 日目 抗原検査 施設入り後 1 日目、2 日目、3 日目 活動終了後、5 日目、14 日目	
B(海外)	コーチなど選手に付き添うスタッフ、ジャッジ、FIG 関係者他、すべての入国者	PCR 検査 入国時*、入国後 1 日目、2 日目、3 日目、8 日目、14 日目 抗原検査(練習など用務のため、大会会場へ外出する場合) 入国後 1 日目、2 日目、3 日目	

B(指定国)	コーチなど選手に付き添うスタッフ、ジャッジ、FIG関係者他、すべての入国者	PCR 検査 入国時、入国後 1 日目、2 日目、3 日目、8 日目、14 日目に加え国が定める検査日* 抗原検査(練習など用務のため、大会会場へ外出する場合) 入国後 1 日目、2 日目、3 日目	変異株の指定国から入国した場合は、入国後 3 日目の検査結果を空港検疫・厚労省に報告
B(国内)	コーチなど選手に付き添うスタッフ、ジャッジ等選手に帯同する者(日本国内から参加)	PCR 検査 はじめてLOC指定施設へ入る 72 時間前以内、1 日目、2 日目、3 日目、8 日目、14 日目 抗原検査 施設入り後 1 日目、2 日目、3 日目 活動終了後、5 日目、14 日目	
C	通訳、整体師など、カテゴリ AB に帯同するスタッフ	PCR 検査 はじめてLOC指定施設へ入る 72 時間前、以降 3 日目、8 日目、14 日目 抗原検査 活動終了後、5 日目、14 日目	
D1 (ワクチン接種者)	観客席エリアに立ち入るスタッフ 関係者エリアへ立入るが、カテゴリ AB に帯同しないスタッフ	検査なし 但し、ワクチン 2 回接種から 2 週間以上経過していることを証明	
D2 (ワクチン未接種者)	観客席エリアに立ち入らないスタッフ 関係者エリアへ立入るが、カテゴリ AB に帯同しないスタッフ	自身で受検した 72 時間前までの PCR 検査陰性判定結果、もしくは、LOC が用意する PCR 検査および抗原定性検査	
E	観客対応をしない、関係者エリアへ立入らないスタッフ(駐車場案内等)	検査なし	会場関係者エリア(バブル)立ち入りなし

* 入国時の PCR 検査は、入国空港の検疫所にて受検する。

* 入国日当日は 0 日目、入国日翌日を 1 日目としてカウントする。

* 帰国時に自国への入国条件として PCR 検査の陰性証明が必要な場合は、LOC へ必要となる条件(検査の種類、出国前の受検時間等)を申請し、LOC が準備する検査ブースにて受検する。

* 指定国および検査頻度は、国が定める最新の「水際対策上特に懸念すべき変異株等に対する新たな指定国・地域について」に基づき変更する。

《参照》

●: PCR 検査実施 抗原: 抗原定性検査

	A 海外	A 指定国**	A 国内	B 海外	B 指定国**	B 国内	C	D1 ワクチン 接種者	D2 ワクチン未 接種者	E
入国日 0 日目*	●	●	●	●	●	●	●	ワクチン ***	●+抗原 ****	
1 日目	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原				
2 日目	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原				
3 日目	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●+抗原	●			
4 日目										
5 日目										
6 日目		●**			●**					
7 日目										
8 日目	●	●	●	●	●	●	●			
9 日目										
10 日目		●**			●**					
11 日目										
12 日目										
13 日目										
14 日目	●	●	●	●	●	●	●			
活動終了 後 5 日目			抗原			抗原	抗原			
14 日目			抗原			抗原	抗原			

* 日本人選手団及び対象者に帯同する日本国内から参加する選手及びスタッフについては、入国日 0 日目を、はじめて LOC 指定施設へ入る 72 時間前に読み替える

** 指定国および検査頻度は、国が定める最新の「水際対策上特に懸念すべき変異株等に対する新たな指定国・地域について」に基づき変更します。

*** ワクチン 2 回接種済み証明書 (2 回目接種から 2 週間以上経過していること。ワクチン接種証明書または 2 回の接種終了が分かる接種券や記録書・接種済証等 (コピー可)) の提示。

**** 72 時間前までの PCR 検査陰性判定結果、もしくは、LOC が用意する PCR 検査および抗原定性検査の受検とする。

2.3. 陽性が確認された場合

2.3.1. 陽性者の対応と治療

1. 直ちに隔離し、ホテルでの療養または入院が求められます。
2. 濃厚接触者追跡に関連するアプリ等の情報の提出を求められた場合、応じなければなりません。
3. 大会への参加を辞退しなければなりません。
4. 隔離解除は日本の退院基準・解除基準に沿って決定され、解除まではそれぞれの国に帰国できません。

2.3.2. LOC の対応

《羽田空港および成田空港で陽性が確認された場合》

各空港の検疫所の指示に従い、指定された病院へ入院または指定された宿泊所で療養します。

空港検疫から陽性者の発生についてプレスリリースが発信された後、LOC からも可及的速やかにプレスリリースを発信します。(両プレスリリースとも、滞在国、性別、年代、検出株など、個人を特定できない情報のみの開示となります)

《北九州市で陽性が確認された場合》

LOC は陽性者の活動を調査し、最初に症状が現れた時または検査を受けて隔離を開始した日から二日前まで遡って往訪した会場を調査し、管轄保健所等と協議し、特定箇所の消毒等の対策を決定します。

2.3.3. 濃厚接触者の対応

2.4 に定義される「濃厚接触者」に該当するかの認定は、LOC により提供される情報に基づき、管轄保健所によって判断されます。

※濃厚接触者と認定された場合、競技に参加することはできません。

2.3.4. 競技の記録の取り扱い

いずれかの段階まで競技した後に、その競技者が陽性と判定されれば、それまでの結果は、認定されます。

2.3.5. 帰国前検査

帰国前に COVID-19 検査が必要な場合、各自で自国で求められる検査内容、検査のタイミング、陰性証明書の様式等を確認してください。

競技会場に帰国前用の検査ブースを設ける予定です。

LOC から各選手宛にメールで URL を送り、URL にアクセスし、受検者自身で検査日の予約を取り、予約日に検査ブースで検査を受けてください。

3. 会場運営

4.1. 会場内における基本的な対策

- 選手、コーチ等のエリアと、一般の方々のエリアを明確に区分し、それぞれの特徴に合わせた対策を徹底する。
- 会場の出入りに検温器を設置する。検温の結果、37.5℃を上回る場合には、入場を断る。なお、選手の場合は、医事委員会の指示に従うものとする。
- ドアの取っ手や手すりなど、人が触れる場所については、定期的に消毒を行う。
- 会場出入口、控室内、競技時の選手控えスペースなどには、アルコール消毒液を設置する。
- 会場内の方々には、手洗いを励行する。
- 常時、マスク着用を徹底する。(演技時の選手を除く)
- 観客には声を出しての応援は控えていただく

4.2. 各会場のフロアのエリア分け、動線等

選手、コーチ等のエリアと、一般の方々のエリアを分けます。

4.3 練習会場

若松体育館、グリーンパーク等を練習会場として使用する。

若松体育館

- 10月13日-10月31日(調整中)は貸切り使用します。
- 施設の使用希望国は予約をとり、国毎にスケジュールを組んで使用します。



グリーンパーク

- 休園日のみ貸切りで使用します。
- 屋外のジョギングやトレーニング場として希望国が使用します。

4. 移動

日本国内においては、LOC が指示する移動手段を使い、移動しなければなりません。LOC が指示しないバスや電車等の移動は禁止しています。

5.1 入国・出国空港と福岡空港・北九州空港の移動

国際参加者は、LOC へ申告した空港を利用しなければなりません。羽田空港、成田空港を想定しています。

入国空港から宿泊施設までの移動方法等は以下のとおりです。

ステップ1【入国】

入国空港(羽田空港、成田空港)到着

- ①飛行機降機
- ②制限エリア内にて、以下を対応
 - ・アプリの事前チェック
 - ・誓約書など必要書類の事前チェック
 - ・機内座席の聞き取り(e チケット等で事前に確認できなかった場合)

↓(確認が取れたら)

- ③PCR 検査
 - ・スタッフの案内に従い、検査結果が出るまで指定場所で待機
- ④陰性確認後、入国審査

②のスタッフは、各国 2 名程度配置する。

陽性の場合、空港
検疫の指示に従
いホテルなどで隔
離・治療。



入国

ステップ2【国内線乗換】

- ①LOCが配置するスタッフに従い、一般人と導線を分けてバス乗り場まで移動
- ②LOC が用意する専用バス/ハイヤーで、国内線ターミナルまで移動
- ③飛行機搭乗 ※LOC は 1 フライトに 1 名添乗員を配置する

専用バス/ハイヤーの配席は
5.3.1 および 5.3.2 のとおり

国内線機内の配席と空席は
5.2 のとおり



九州へ

ステップ3【空港から宿泊施設】

- ①飛行機降機
- ②LOC が配置する添乗員およびスタッフに従い、一般人と導線を分けてバス/タクシー乗り場まで移動
- ③LOC が用意する専用バス/ハイヤーで、各宿泊施設まで移動

5.2 国内線機内における感染症対策

入国空港(羽田、成田)から福岡空港、北九州空港への国内線の利用にあたっては、次のようなコロナ感染症対策を講じます。

- ① 機体前方に一般搭乗者の座席、後方に入国者の座席を寄せ、間には2列以上の空席(ソーシャルディスタンス席)を設けます。
- ② 搭乗時は入国者から搭乗し、着席後に一般搭乗者を搭乗させます。通路での導線も交わらないオペレーションとします。
- ③ 降機時は一般搭乗者から降機し、完了後に入国者を降機させます。通路での導線も交わらないオペレーションとします。
- ④ 機内のトイレは、入国者は後方トイレのみ、一般搭乗者は前方トイレのみ使用可能の案内をします。
- ⑤ 1フライト毎に添乗員を配置し、②-④の対策が実行されるようにします。

5.3 北九州市内の移動

福岡空港または北九州空港からホテルまで、またホテルと大会会場の移動手段は、LOCが用意するバスまたは車に限られます。大会参加者のうち、一部の国内スタッフを除き、公共交通機関の使用は禁止です。

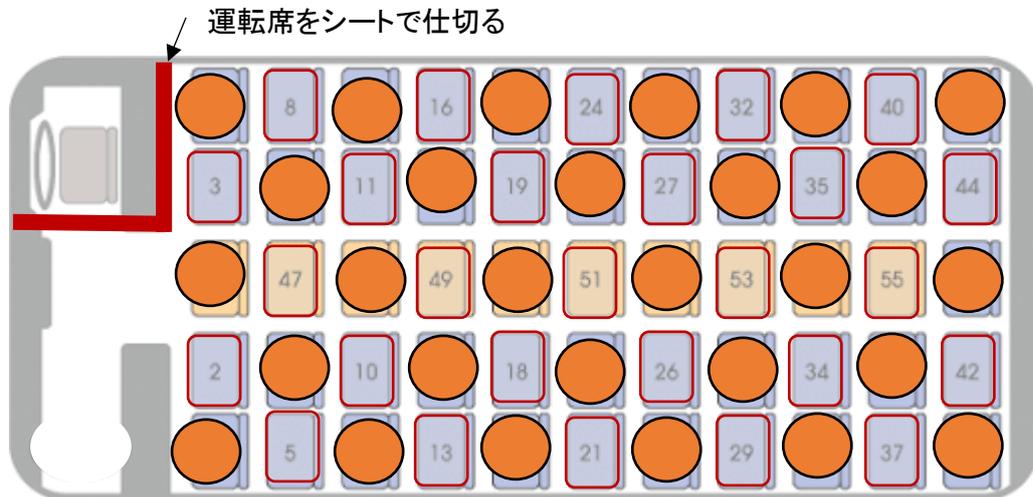
LOCは、輸送・受付担当者(バス運転手、ホテルのスタッフ)全員が、対策指針を遵守していることを確認します。

5.3.1 空港とホテルの移動

福岡空港または北九州空港とホテルとの往復は、LOCが用意する大型バスまたはハイヤーを使用します。

大型バスにおける座席配置のイメージは、次の通りとします。

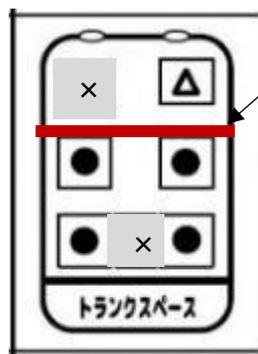
● 乗客(最大 28 席) □ 空席または荷物



5.3.2 ホテルと大会会場の移動

ホテルと大会会場との往復は、LOCが用意するバスまたはハイヤーを使用します。使用する車種および座席配置図は次のとおりです。(バスは 5.3.1 に同じ。)

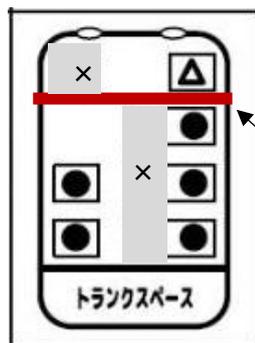
△運転席 ●乗客 ×使用しない
大型ハイヤーの乗車席イメージ



運転席をシートで仕切る



ジャンボタクシー(ハイヤー)の乗車席イメージ



運転席をシートで仕切る

5.3.3 乗車・降車にあたって

- ホテルが指定する場所で乗降してください。
- 大会会場ではハイヤー用のプールを設けます。会場スタッフの誘導に従ってください。
- 待機列では前後1メートル以上のフィジカルディスタンスを保ってください。

5.3.4 国内運営スタッフ

国内スタッフのうち、カテゴリーD および E は公共交通機関を利用することが可能です。

5.3.5 ハイヤーにおける対策

- ハイヤー運転手は、乗務開始前に検温を行い、発熱または COVID-19 症状があるものは乗務を停止します。
- 乗客がある間はマスクを着用します。
- 運転手は窓を常時開けて換気を行う
- 換気モードを外気を取り入れるモードに変更する
- 乗客の降車後、次の乗客を乗せるまでに車内の換気とドア等の手が触れる部分の消毒を行います。

5. 宿泊施設

参加者は LOC が指示するホテルに宿泊します。

LOC は選手団1か国・地域ごとにできるだけ一塊とし、一般客と廊下ですれ違わない部屋割りをホテルと調整します。

6.1. ホテルにおける対策

- 出入り口に手指消毒液を設置し、使用を促します。
- 共用場所では、飲食中を除いて、常にマスクを着用します。
- ロビー、廊下、エレベーター等、歩行中に飲食をしないようにします。
- エレベーターはホテルに指定されたエレベーターを使用し、一般客と混載しないこと。エレベーター内では密になることは避けるよう譲り合って利用します。専用に分けられない場合は、時間で区切り、ホテルスタッフ及びリエゾンで一般客と混載しないよう誘導します。

6.2. 一般客への対応

- 出入り口に手指消毒液を設置し、使用を促します。
- チェックイン時に検温を行います。
- 共有場所では、飲食中を除いて、常にマスクを着用を促します。
- 選手団にむやみに近づかないよう協力を依頼し、適宜ホテルスタッフにてフィジカルディスタンスを保つよう誘導します。
- ホテルは、一般客用と選手団用でエレベーターが分かれていることを説明し、混載しないよう協力を依頼します。専用に分けられない場合は、時間で区切り、ホテルスタッフ及びリエゾンで一般客と混載しないよう誘導します。

6.3. 監視員の配置

LOC は、各ホテル毎にプロ警備員(株式会社イオンディライトに委託)を派遣し、各フロア・出入口・ホテル周辺を24時間体制での巡回監視を行います。

6. 飲食

7.1. 食事場所

食事は、新型コロナウイルス感染症対策の施されている下記のいずれかの場所でとります。

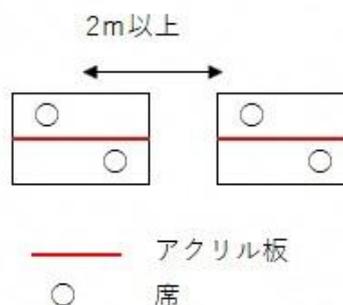
- LOC 指定のレストラン(ホテル内またはホテルにスペースがない場合は、感染症対策を施せる最寄りのレストラン)
- 大会会場における食事施設
- または自室でとれる弁当の配布やデリバリ

感染対策:

- ・入口でのアルコール消毒と検温を実施
- ・個包装のバイキング形式で提供。ドリンクはペットボトル、紙パックで提供。(イメージ写真)
- ・テーブル間は、ソーシャルディスタンスを確保。
- ・1テーブル4人掛けに対角線上に配席し、それぞれを区切るよう、自立式の飛沫防止パネルを設置。
- ・テーブルクロスは布製タイプのものの上にビニールシートをかけ、アルコール消毒。



配席イメージ



朝食は、部屋でとります。

7.2. 飲食エリア利用者における対策

- 他者と2メートルの距離を保ち、一人で黙食します。
- 入口等・受付での手指消毒液を設置します。
- 食事は混雑回避のため、可能な限り滞在時間短縮し、終了後は速やかに退室します。
- 競技がない選手及びチーム役員は混雑する時間帯を避けて利用するよう協力するようにします。

7.3. 飲食エリア利用者、施設管理者による対応

- 飛沫防止板(仕切り/スプラッシュガード等)の設置します。
- 配膳スタッフは全員、マスクを着用し、適宜手袋とフェイスシールドも着用します。参加者らとはフィジカルディスタンスを保つようにします。
- サイネージを掲示(手洗い・マスクの着用ルール等)します。
- 待機列フットサインを設置(1メートル以上のフィジカル・ディスタンス)します。
- エリア室内の換気を常時行います。
- 手指の消毒液、手洗い用石鹼(ポンプ式)を設置し、使用を呼びかけます。

- ビュッフェスタイルは取りません。果物または軽食は包み、ボトル飲料やパック飲料を用意します。
- テーブル等の定期的な消毒と清掃を行います。

7. 観客

「観戦日より2週間前までに新型コロナウイルスワクチンを接種2回完了」または「入場時間72時間前までのPCR検査陰性判定」を対象に観戦チケットを販売する。

《入場時の確認》

入場の際に、観戦者全員分の「ワクチン接種証明書(※)」または「入場時間72時間前までのPCR検査陰性判定結果」と顔写真付き身分証明書を確認する。

※ワクチン接種証明書または2回の接種終了が分かる接種券や記録書・接種済証等(コピー可)ただし、観戦日より2週間前の接種であることが必須。

8. テクニカル ミーティング

テクニカルミーティングはオンラインで行います。

なお、テクニカルミーティングには以下が含まれます。

- ジャッジミーティング
- テクニカルミーティング
- メディカルミーティング
- オリエンテーションミーティング

COVID-19 対策会議メンバー

FIG 会長	渡辺 守成	国際体操連盟
FIG メディカル委員長	岩崎 安伸	国際体操連盟
組織委員会会長	山本 宜史	日本体操協会
組織委員会副会長	中平 稔人	福岡県
組織委員会副会長	神崎 智子	福岡県
組織委員会副会長	三浦 隆宏	北九州市
組織委員会副会長	深町 宏子	北九州市
組織委員会副会長	具志堅 幸司	日本体操協会
組織委員会副会長	松枝 政巳	福岡県体操協会
組織委員会副会長	上村 郁代	福岡県体操協会
福岡県保健医療介護部医監	佐野 正	福岡県保健行政
北九州市保健福祉局長	永富 秀樹	北九州市保健行政
感染症専門医師	山口 征啓	KRICT

アクティビティ

無許可での外出の防止やメンタルヘルスケアとして、防疫措置をしたバブルを維持したままアクティビティを行う。

また本大会は、本来であれば開催地の地元住民と選手ら参加者との交流が図られる貴重な機会であったが、感染症予防の観点から、交流機会が制限されている。フィジカルではなく、心の交流が図れるよう以下のような取り組みを行い、さらに、海外へ向けて開催地の魅力を発信する機会を創出する。

○お土産販売

食事会場内に、北九州市の物産品を中心にお土産品や日用品の販売コーナーを設置し、バブル内で必要なものの購入や買い物を楽しむ場を設ける。

○地元住民との心の交流と北九州の魅力体験

食事会場および練習会場に北九州の魅力発信ステーションを設置する。具体的には、

- 動画やパネルで北九州の魅力を体験
- こどもたちや市民からの応援メッセージの展示
- 市民からの応援動画で心の交流



○市内周遊バスツアー

バスの中から北九州市内を観光する。座席は以下のとおり間隔を広く開け、バスからは降りないこととする。

大型バスにおける座席配置のイメージは、次の通りとします。

- 乗客(最大 23 席) □ 空席

